

本来は西表島の鳥 ムラサキサギ

夏休みの半ばごろ、ハルアキ先輩から珍鳥情報が届いた。「舎人公園にムラサキサギが出ているらしい」と。ムラサキサギと言えば、基本的に日本では先島諸島でしか見られない地域色の強いサギの仲間である。見た目はアオサギに近いが、名前の通り紫がかった羽の色をしていて、きれいなサギである。そんなサギがなぜか迷鳥として東京に来たというのだ。私はもともとこのサギを西表島フィールドワークの目標種にしていたが、結局2年連続で見られなかったので、さっそくハルアキ先輩を誘い、翌日に舎人公園に行くことにした。

翌日、朝9時くらいに舎人に着いた。ハルアキ先輩と共に、公園内を散策し、最初に見られたのはササゴイだった。ササゴイはゴイサギの仲間であちちの葉っぱなどの異物を疑似餌（ルアー）にして魚を捕まえることでかなり有名な鳥だ。私はいつか見てみたいと思っていたがここで初めて見る事ができた。しかし、悪いけど今じゃない。本当は感激しながら長時間見ていたいところだったが、今回の本命はムラサキサギなのですぐに移動することになった。

公園の西側に行くと、カメラマンの列が見えた。ざっと50人はいただろうか。どうやらここにムラサキサギがいるらしい。が、いざ探してみると何も見えない。そういえばカメラマンもカメラを向けていない…。どこにいるのかと思いカメラマンの話を盗み聞きすると、どうやらヨシ・ガマの茂みに隠れているようである。しかも、日中はずーっと隠れているようである。隠れているときにもたまに少し顔を出すことがあったが、ついにこの日は全身を見ることができなかった。

そのさらに翌日、私は4時に起床して舎人に向かった（なんか似たようなことを前もやった気がするな…（Vol.146参照））。早朝に行ってムラサキサギを確実に見てやろうという魂胆だ。舎人に到着すると、まだ朝の5時台なのにに関わらずもう20人くらいカメラマンがムラサキサギを撮影していた。どうやら今は見えるところに出ているようだ。いざ観察窓をのぞいてみると、そこにはアオサギを少し小さくして紫色と薄茶色に塗ったようなサギがいた。ムラサキサギだ。今回の個体は幼鳥～若鳥だった。まだ成鳥よりも色が全体的に薄く、アオサギと見間違えそうだが、見られて非常に良かった。一方で、西表島じゃなくて東京で見ることになるとは思っていなかったの、なんだが複雑な気持ちになった。次は本場（西表島）で、きれいな成鳥を見たい。



ムラサキサギの若鳥 成鳥はもっと紫色である。



※中心部拡大図

ムラサキサギを探してみよう！（答えは右写真）